

参加申込

下記のURLかQRコードよりフォームにアクセスいただき、
必要事項をご記入の上、お申込みください。

<https://business.form-mailer.jp/fms/1ab78339248995>



都内のおもちゃ美術館

都心の歴史的校舎に 子どもたちの声がよみがえる

T 東京おもちゃ美術館 (東京都新宿区)

戦前に建てられた旧校舎を活用。都会のど真ん中にもかかわらず、木の温もりが感じられる体験&交流型のミュージアムです。難病児の招待制度や「グッド・トイ」を発表するなど、日本全国に遊びを届けるアクティブなミュージアムです。

東京おもちゃ美術館では、幼稚園・保育園を中心に、年間150件を超える団体を受け入れています。新宿区の幼稚園・保育園の年長クラスの遠足は、年長の園児と引率の先生の入館料、部屋代を無料でご案内させていただいております(年1回)。詳しくはQRコードよりご覧ください。

所在地 東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内
開館 2008年4月
設置/運営 認定NPO法人芸術と遊び創造協会



目指せ木のおもちゃ村 おもちゃ工場を併設

H 檜原 森のおもちゃ美術館 (東京都檜原村)

檜原村では日本で唯一の木のおもちゃの村にする「檜原村トイ・ビレッジ構想」を進めています。豊かな森林資源をふんだんに活用した空間、隣接するおもちゃ工房では直に製作現場を見ることができ、豊かな自然環境に触れる「そとあそび」も充実しています。木の魅力を伝えることに加え、人と森を繋ぐ美術館を目指します。

檜原森のおもちゃ美術館では、都内の幼稚園・保育園の遠足なども、積極的に受け入れています。ご希望に応じて、木育ワークショップやそとあそびのプログラムなども調整できますので、まずはご相談ください。詳しくは、下記「団体利用」QRコードのサイトをご覧ください。

所在地 東京都西多摩郡檜原村小沢3783
開館 2021年11月
設置/運営 檜原村 / NPO法人東京さとやま木香會



お問い合わせ

登録番号 (6) 88

令和6年度 ウッドスタート推進事業



森のめぐみの 保育環境セミナー 2024

2024年9月7日(土) 13:00~16:00 | 都民ホール(東京都新宿区)

森のおくりものを東京の子どもたちへ “木育”を真ん中に置いた新しい保育の形を考える

木育とは、木材や木製品とのふれあいを通じて、木や森への親しみを深め、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための活動です。木育の重要性や具体例についての専門家のお話や、木育を実践されている保育現場の方からの報告をいただくセミナーを開催します。子どもたちの日常である「おもちゃ」「お散歩」「園舎」などから、木育と保育環境について共に考え合ひましょう。

参加無料
・
要事前申込



ごあいさつ



東京都産業労働局
農林水産部森林課 課長
鑑 美知子

本セミナーは、今年度で10回目の開催となります。これまで、ご協力いただきました皆様、木育活動に取り組まれてきた皆様に、心から感謝申し上げます。東京は、総面積の約四割を森林が占める自然に恵まれた都市であり、水を貯えるなど様々な役割を持つ森林は、次世代に引き継ぐべき都民共有の財産です。木や森への親しみを深め、子どもたちの豊かな感性を育む木育の取組が、これからも多くの皆様の活動に取り入れられ、広がっていくことを期待しています。



認定 NPO 法人
芸術と遊び創造協会 理事長
多田 千尋

本セミナーは今回で、記念すべき第10回を迎えます。東京都の林政部局が保育者を対象にセミナーを開催するというのは、当時は画期的でしたが、10年を経て定着してきたことが感慨深く、東京都の「木育」熱の高まりを感じる数字だと受け止めています。改めて、ご関係の皆様の尽力に感謝申し上げます。今年度から森林環境税の課税がスタートするなど、国民的に「森林環境」への関心を高めていかなくてはいけない時期です。登壇される皆様と会場の皆様と、東京都の木育をさらに前進させる場としましょう！

森のめぐみの保育環境セミナー プログラム

時 間	プログラム	登 壇 者
13:00	開会	
13:05	開会挨拶	東京都庁森林課 課長 鑑 美知子 認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会 理事長 多田 千尋
13:25	「木育ってなあに」 ～東京おもちゃ美術館が推進する木育がもたらす 子どもの育ちとは～	認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会 事務局長 馬場 清
13:45	東京都木育推進事業について	東京都森林課
13:50	第1部 【保育実践報告会】 質疑応答	パネリスト： ●グリーンヒル幼稚園／秋川文化幼稚園 園長 池谷 善郎 ●社会福祉法人 種の会 世田谷はっと保育園 園長 衛藤 美樹子 ファシリテーター： 認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会 事務局長 馬場 清
14:50	休憩	
15:05	第2部【パネルディスカッション】 「明日からの保育を、木育を支える人たちと考える」 ～東京の樹が山から園にくるまで。 園にやってきた木と子どもたちをつなぐこととは～ 質疑応答	パネリスト： ●株式会社 長谷萬 鈴木 康史 ●株式会社 東京チェンソーズ 飯塚 潤子 ●株式会社 Tree to Green 青野 裕介 ●グリーンヒル幼稚園／秋川文化幼稚園 園長 池谷 善郎 ●社会福祉法人 種の会 世田谷はっと保育園 園長 衛藤 美樹子 ●東京都庁森林課課長 鑑 美知子 ファシリテーター： 認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会 理事長 多田 千尋
15:55	閉会挨拶	
16:00	閉会	

登壇者情報



池谷 善郎
(グリーンヒル幼稚園 / 秋川文化幼稚園 園長)
学校法人 グリーンヒル幼稚園 理事長・園長。1958年東京都あきる野市の180年続く林業家庭に生まれる。日本材の低迷により47年前に父親が幼稚園に転向、大学卒業直後に後継者へ。幼少期から自然や生き物に興味があり、園長就任後は木育・自然体験を保育の柱としている。毎年園児と自分の山に入り、伐採シーンを見学させたあと、切り倒した木の輪切り等を外遊び玩具にする。多摩産材のログハウスや木育遊具を多数整備したウッドスタート幼稚園である。



衛藤 美樹子
(社会福祉法人種の会 世田谷はっと保育園 園長)
幼稚園、認可保育園での現場実践ののち平成17年度より世田谷はっと保育園の副園長のち園長に就任。園庭にはデッキ付きツリーハウス、すべり坂など東京都木育推進事業補助金を利用し設置してる。



飯塚 潤子
(株式会社 東京チェンソーズ)
1984年生まれ。茨城県つくば市出身。東京大学農学部森林環境科学専修卒。国際見本市主催会社に4年、林野庁の外郭団体に1年勤めた後、2013年東京チェンソーズへ入社。2014年よりおもちゃ事業立ち上げに関わる中で、「檜原村トイ・ビレッジ構想(2018年)」イラストを担当するなど村との関わりも深める。現在は檜原村おもちゃ工房を拠点に製造以外のあらゆる業務を担当。2016年に檜原村へ移住、2児の母。2023年より林野庁林政審議会委員。2024年よりミスとうきょう林業。



鈴木 康史
(株式会社 長谷萬)
株式会社長谷萬で、各種木製品から住宅まで、木に関わる商品の企画・開発を担当。幾つかの木製品でグッドデザイン賞やウッドデザイン賞を受賞。前職では木造住宅メーカーの商品開発責任者として、様々な木の住まいを開発。



青野 裕介
(株式会社 Tree to Green)
大学卒業後、金融・コンサルティング・環境エネルギー業界を経て2013年に㈱Tree to Greenを設立。長野県木曽郡を中心に、国産木材の需要拡大と地域の活性化、木育普及に積極的に取り組む。2022年4月から木曽郡木曽町に自社工場の運営をスタート。

ファシリテーター

多田 千尋 (認定 NPO 法人 芸術と遊び創造協会 理事長)
特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会理事長、東京おもちゃ美術館館長。乳幼児から高齢者までの遊び・芸術によるアクティビティア及び世代間交流の実践・研究に取り組む。2010年より林野庁の補助事業を受託し、2013年からウッドスタート事業を開始、「木育」を全国的な国民運動に押し上げる。木育のシンボルである「おもちゃ美術館」は現在、全国に12館創設され、赤ちゃんからお年寄りまでの多世代交流型の木育推進の牽引役も務める。

馬場 清 (認定 NPO 法人 芸術と遊び創造協会 事務局長)
1963年東京都生まれ。高校、大学の教員を経て、2010年4月、特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会事務局長に就任。東京おもちゃ美術館が進めている「ウッドスタート」の取組において、全国の自治体と組んで、木育推進に取り組んでいる。

森林環境譲与税 事例紹介



都内連携・多摩産材利用
東京都 三鷹市(公立保育園における「公共施設木製備品導入プロジェクト」の推進)

- 森林を有していない三鷹市では保育園の机・椅子、おもちゃなど、森林環境譲与税を主に木材の利用促進及び普及啓発に充てていく方針である。
- 令和3年度においては公立保育園を対象に木製遊具・什器を導入した。
 - 各保育園で92万円を上限に各保育園が購入品目を選定し、園児が過ごすスペースに木製用品を設置した。
- 令和4年度においては、市内私立保育園、令和5年度は地域型、小規模保育施設および市内私立幼稚園を対象に同様の事業を実施予定である。

事業内容

① 公立保育園における「公共施設木製備品導入プロジェクト」推進

- 公立保育園13ヵ所を対象に幼児が使用する机や椅子、下駄箱などの什器や、屋外遊具を購入した。

事業費	11,766千円(うち譲与税5,882千円)
実績	机・椅子・遊具等を導入(木材使用料 5.47㎡)

事業スキーム



工夫・留意した点

- 各園の事情に合った使いやすい用品を購入できるよう、各園で購入品目を選定する形をとった。
- 地元である多摩地域産木材の利用促進を図るため、多摩産材を総材額の50%以上使用した木製用品を導入した。

基礎データ

1	令和3年度譲与額	15,713千円
2	私有林人工林面積(※1)	0ha
3	林野率(※2)	0.1%
4	人口(※3)	195,391人
5	林業就業者数(※4)	3人

※1、2:「2020年度林業センサス」より
※3:「12年度国勢調査」より
※4:「1427年度国勢調査」より

※東京都ホームページより引用

事例1 幼児机・椅子

事例2 下足入れ

事例3 屋外遊具

事例4 屋内遊具